

2008 年度水稲除草剤出荷速報および今後の動向

山木 義賢*

Quick estimation of paddy rice herbicide shipment in 2008 and future trend

Yoshinori Yamaki*

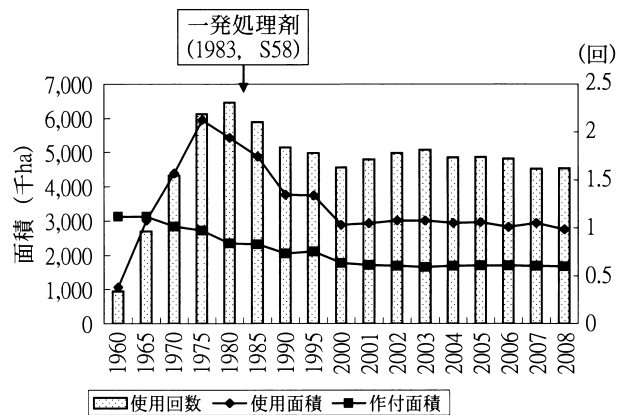
キーワード：水稲除草剤，出荷量，使用面積，剤型，新規登録流通薬剤

当協会では農業メーカー各社の協力により、毎年6月末と9月末時点の2回、除草剤の出荷量について調査、とりまとめを行っている。今回は、その中で水稲除草剤に関する2008年度の6月末時点の出荷量について報告する。ただし速報であり、数字は未確定のため、追って正式な数値を報告したい。

第1表に、流通した薬剤の剤数、出荷数量の集計値および出荷数量から推定した使用面積を示した。水稲除草剤全体の出荷数量は2.8万t,klであり、そこから推定される除草剤の推定使用面積は271万8千haとなった。これらは前年の6月末時点の集計値に比べ、それぞれ97%、99%と、ほぼ前年並みの値であった（以下、「前年比」の記載は同様の比較を示す）。東北地域の推定使用面積についても前年並みの73万ha（前年比99%）であり、全国の推定使用面積の4分の1を東北地域が占めているこ

とになる。

推定使用面積の推移をみると、推定使用面積は1975年頃をピークに2000年頃までは減少し、2000年以降は横ばいで経過している（第1図）。これは1980年のはじめ頃から一発処理剤が使用され始め、それまで初期・中期の2回散布で行っていた防除体系から一発処理剤による一回散布による防除に切りかえられた水田が増大したためであると考えられている。一発処理剤が登場する以



第1図 除草剤使用面積と作付面積の推移

第1表 平成20年度（6月）全国出荷数量，使用面積

	全 国	東 北
出荷数量 (t, kl)	2.8万 (97)	0.7万
推定使用面積 (ha)	271万8千 (99)	73万 (99)

括弧内は前年同月比率%

第2表 使用方法別面積

区 分	全 国			東 北		
	使用面積 (ha)	構成比 (%)	前年比 (%)	使用面積 (ha)	構成比 (%)	前年比 (%)
一発処理	1,661,166	(61)	(98)	440,301	(60)	(96)
体系処理 (初期)	580,916	(21)	(99)	174,792	(24)	(93)
体系処理 (中・後期)	483,834	(18)	(107)	114,943	(16)	(124)
総 計	2,725,915	(100)	(99)	730,035	(100)	(98)

* 財団法人日本植物調節剤研究協会 技術部 〒110-0016 東京都台東区台東1-26-6

The Japan Association for Advancement of Phyto-Regulators (JAPR), Taito, Tokyo 110-0016, Japan

前には使用回数が2回以上(2.3回)であったのに対して、2008年度の推定使用回数は、推定使用面積が作付面積のおよそ164%、つまり1.6回程度となっている。一

発処理剤が登場して使用回数は減少したが、依然として1.5回を下回ることなく推移している。

使用方法別の推定使用面積をみると、全国では一発処

第3表 剤型別使用面積

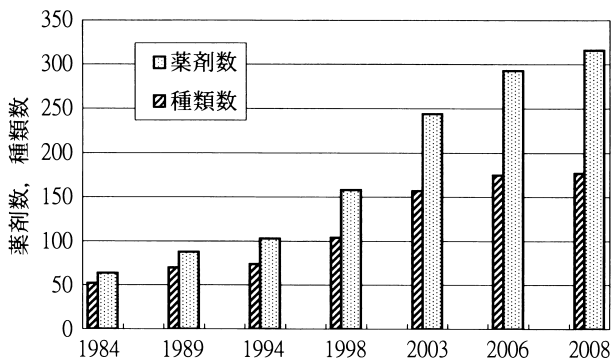
区 分	全 国		東 北	
	使用面積 (ha)	前年6月比 (%)	使用面積 (ha)	前年6月比 (%)
3キロ粒	426,454	(98)	85,230	(105)
1キロ粒	976,559	(98)	338,090	(100)
少量拡散型粒	16,102	(93)	10,828	(95)
フロアブル・顆粒水和	579,891	(96)	163,452	(92)
ジャンボ	351,948	(106)	70,527	(102)
乳	232,706	(98)	42,450	(95)
液, 水和, 水溶	134,446	(96)	19,457	(137)
合 計	2,718,104	(98)	730,035	(99)

第4表 使用面積上位10剤 (全国)

2008年度(6月末)					2007年度(6月末)			
順位		商 品 名	推定使用面積 (ha)	前年比 (%)	順位		商 品 名	推定使用面積 (ha)
1	初	ソルネット	128,593	93	1	初	ソルネット	139,013
2	—	トップガン	94,044	97	2	—	トップガン	97,369
3	初	エリジャン	86,796	91	3	—	ミスターホームラン	95,891
4	—	ミスターホームラン	83,803	87	4	初	エリジャン	95,026
5	中・後	バサグラン	80,685	119	5	—	トップガンGT	77,333
6	—	トップガンGT	79,870	103	6	—	ダブルスターSB サンサール	71,896
7	—	ダブルスターSB サンサール	77,765	108	7	中・後	2,4-D	69,928
8	—	クサトリーDX	75,439	128	8	初	サキドリ	68,788
9	中・後	2,4-D	72,013	103	9	—	テラガード	68,128
10	中・後	クリンチャー	69,741	106	10	中・後	バサグラン	68,006

第5表 使用面積上位10剤 (東北)

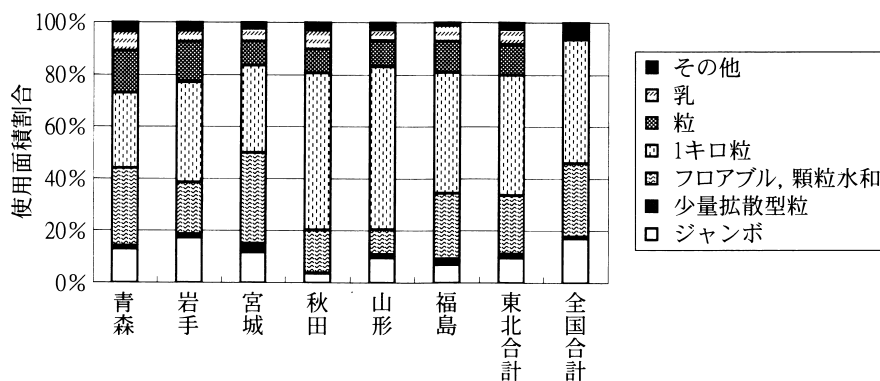
2008年度(6月末)					2007年度(6月末)			
順位		商 品 名	推定使用面積 (ha)	前年比 (%)	順位		商 品 名	推定使用面積 (ha)
1	初	ソルネット	79,620	95	1	初	ソルネット	83,525
2	—	クサトリーDX	46,678	138	2	—	トップガン	53,930
3	—	トップガン	42,490	79	3	—	ダブルスターSB サンサール	36,247
4	—	ダブルスターSB サンサール	32,152	89	4	—	クサトリーDX	33,893
5	中・後	バサグラン	31,402	137	5	—	テラガード	33,060
6	—	テラガード	30,738	93	6	—	トップガンGT	29,860
7	初	エリジャン	25,862	92	7	初	エリジャン	28,122
8	—	トップガンGT	25,843	87	8	—	ホクト	24,388
9	中・後	クリンチャー	21,651	119	9	中・後	バサグラン	22,877
10	—	キチット	20,926	98	10	—	キチット	21,343



第2図 水稲除草剤の薬剤数、種類数

理剤が166万ha、体系処理（初期）が58万ha、体系処理（中・後期）が47.6万ha、東北地域では一発処理剤が44万ha、体系処理（初期）が17.4万ha、体系処理（中・後期）が11.4万haとなっている（第2表）。構成比では全国、東北地域とも一発処理剤が60%程度を占める。体系処理（中・後期）は構成比では20%に満たないが、全国、東北地域とも前年を上回った。全国で前年比107%、東北地域で124%と特に東北地域における前年比の増大程度が大きかった。

水稲除草剤の使用回数が減少している一方、水稲除草剤の数は多様なニーズに応えるためか、近年めざましく



第3図 東北各県の剤型別使用面積割合

第6表 新登録流通薬剤

一発処理

	商品名	剤型	有効成分名・含有率%
1	アピロトップL	フロアブル	ピリフタリド+プレチラクロール+ベンスルフロンメチル：3 + 12.5 + 1.5
2	オークス	ジャンボ	カフェンストロール+ベンゾピシクロン+ダイムロン+ハロスルフロンメチル：5.0 + 4.0 + 10.0 + 1.2
3	オークス	粒 (1キロ)	カフェンストロール+ベンゾピシクロン+ダイムロン+ハロスルフロンメチル：3.0 + 2.0 + 5.0 + 0.6
4	クサナイト	粒	ピラゾキシフェン+プレチラクロール：6 + 1.5
5	トリデA 1キロ 36	粒 (1キロ)	アジムスルフロン+シハロホップブチル+テニルクロール+ベンスルフロンメチル：2.1 + 0.3 + 1.8 + 0.06
6	パンチャー	フロアブル	フェントラザミド+ベンゾフェナップ+ベンフレセート：6 + 16 + 10
7	プラスワン 1キロ 51	粒 (1キロ)	オキサジクロメホン+ベンスルフロンメチル+ベンゾピシクロン：0.8 + 0.51 + 2
8	プラスワンL	フロアブル	オキサジクロメホン+ベンスルフロンメチル+ベンゾピシクロン：1.2 + 1 + 4

体系（初期）

	商品名	剤型	有効成分名・含有率%
1	ピラクロン	フロアブル	ピラクロニル：3.6
2	ピラクロン 1キロ	粒 (1キロ)	ピラクロニル：1.8

体系（中後期）

	商品名	剤型	有効成分名・含有率%
1	クサファイター 1キロ	粒 (1キロ)	アジムスルフロン+シハロホップブチル：0.18 + 1.8
2	ハイカット 1キロ	粒 (1キロ)	シハロホップブチル+ジメタメトリン+ハロスルフロンメチル+ベンゾピシクロン：1.8 + 1 + 0.9 + 2
3	ワイドアタック SC	SC	ペノキスラム：3.6

増えている。年次とともに徐々に増大してきたが、平成10年の150剤程度から、現在は300剤以上が流通しており、ここ10年で倍増したことになる(第2図)。剤数が増えた要因のひとつには剤型が多岐にわたっていることが挙げられる(他にはSU抵抗性対策剤が多く開発されたことも挙げられる)。粒剤が主体であった1980年代か

ら、1990年代はフロアブル剤、ジャンボ剤が登場、普及し、それに伴って薬剤の数が増大した。

第3表に剤型別の推定使用面積を示したが、2008年度では3キロ粒、1キロ粒、少量拡散型粒、フロアブル・顆粒水和、ジャンボ、乳剤、液・水和・水溶剤といった多くの剤型が使用されている。剤型別の使用面積では1

付表 県別の推定使用面積(2008年度6月末)

青森

順位	商品名	推定使用面積 (ha)	前年比 (%)
1	クサトリー DX	12,217	135
2	ソルネット	9,222	106
3	テラガード	8,257	141
4	トップガン	7,188	85
5	バサグラン	6,654	99
6	ホクト	3,940	73
7	エリジャン	3,776	126
8	ザーク	3,539	94
9	ラクダープロ	3,535	89
10	ダイナマン	3,355	101

岩手

順位	商品名	推定使用面積 (ha)	前年比 (%)
1	ダブルスター SR サンサール	22,321	89
2	クサトリー DX	12,476	158
3	テラガード	8,319	68
4	バサグラン	8,023	199
5	キット	4,442	77
6	ホクト	2,906	113
7	エリジャン	2,388	83
8	プラスワン	2,096	98
9	クリンチャー	1,859	140
10	ソルネット	1,652	90

宮城

順位	商品名	推定使用面積 (ha)	前年比 (%)
1	トップガン	16,310	65
2	クサカリティオー	9,562	194
3	クサトリー DX	9,433	473
4	ソルネット	7,139	58
5	マメット SM	4,880	2,047
6	イッテツ ボランティア	4,821	64
7	トップガン GT	4,783	57
8	エリジャン	3,604	66
9	ベクサー	3,009	150
10	バサグラン	2,360	154

秋田

順位	商品名	推定使用面積 (ha)	前年比 (%)
1	ソルネット	23,766	96
2	クリンチャー	9,712	148
3	ホームランキング	8,935	95
4	スパークスター	7,623	89
5	エリジャン	7,258	101
6	バサグラン	5,885	144
7	トップガン GT	5,426	110
8	イノーバ DX アップ	5,107	3,114
9	マーシェット	5,087	91
10	ジョイスター	4,937	70

山形

順位	商品名	推定使用面積 (ha)	前年比 (%)
1	ソルネット	19,036	92
2	テラガード	10,215	179
3	キット	6,239	103
4	スパークスター	5,587	83
5	マーシェット	4,663	103
6	バサグラン	4,210	140
7	クサトリー DX	3,975	159
8	エリジャン	3,716	101
9	ミスターホームラン	3,506	99
10	ホクト	3,442	81

福島

順位	商品名	推定使用面積 (ha)	前年比 (%)
1	ソルネット	18,805	123
2	トップガン	12,662	102
3	トップガン GT	11,315	107
4	キット	7,497	97
5	クサトリー DX	6,357	138
6	エリジャン	5,120	87
7	マメット SM	4,939	106
8	バサグラン	4,271	121
9	シリウスターボ	3,930	99
10	農将軍	3,738	102

キロ粒剤の使用が最も多く、次いでフロアブル・顆粒水和と続いており、1キロ粒剤は全国で推定97.7万ha使用されている。2008年度については全体的には前年と比べて大きな変化はないが、ジャンボ剤は前年比106%と使用面積が増えてきている。

東北地域ではそれぞれの県により使用される剤型の使用面積が異なり、秋田県、山形県では東北地域の他の県に比べて1キロ粒剤の使用面積割合が高くなっている。ジャンボ剤は岩手県が最も使用面積割合が高かった（第3図）。

個別の剤について使用面積上位10剤をみると、ソルネットが12.9万haと最も使用面積が大きく、以下、トップガン、エリジャン、ミスターホームラン、バサグラン、トップガンGT、ダブルスターSB・サンサール、クサトリーDX、2，4-D、クリンチャーの順となった（第4表）。東北地域でも全国と同様にソルネットが最も使用面積が大きく8万haであり、以下、クサトリーDX、トップガン、ダブルスターSB・サンサール、バサ

グラン、テラガード、エリジャン、トップガンGT、クリンチャー、キチット。先にも述べたとおり全国、東北地域ともにバサグラン、クリンチャーなどの体系（中・後期）の剤の使用面積が前年に比べて大きくなった（第5表）。

2008年度の新規登録流通薬剤を第6表にまとめた。一発処理で8剤、体系（初期）で2剤、体系（中・後期）で3剤の計13剤に上る。新規登録流通薬剤に含まれる有効成分の多くは既に登録流通されている薬剤に含有しているが、体系（初期）、体系（中・後期）に含まれるピラクロニル、ペノキススラムについては今回初めて含まれる新規の有効成分になる。

以上、水稲除草剤の出荷量に関して当協会が毎年行っているとりまとめ結果を、速報という形でお示ししたが、このとりまとめを行うにあたり協力いただいた農薬メーカー各社はじめ関係各位に対して改めて感謝申し上げます。また、当協会では今後とも継続して、とりまとめを行っていく予定である。

(2009年6月15日受理)